

ボランティアさんが紫陽花を生けてくださいました

病院ボランティアの浜田辰郎さんが、梅雨にふさわしい紫陽花を生けてくださいました。
正面玄関ロビーに飾っていますので、当院にお越しの際はぜひご覧ください。



意外かもしれませんが、「あじさい」はもともと日本の固有種です。原種である「がくあじさい」が18世紀にヨーロッパで品種改良され、「西洋あじさい」が生まれました。

その後、「西洋あじさい」が日本に逆輸入され、庭木として広く一般に普及しました。派手な印象の「西洋あじさい」と比べ、「日本原種のあじさい」は花も小さく楚々として控えめな印象です。

「あじさい」は「おた草」とも呼ばれていますが、それは幕末に日本を訪れたドイツ人医師シーボルト (Philipp F. von Siebold; 1796-1866) がアジサイに *Hydrangea Otaksa* Sieb. et Zucc. の学名を付けたことによるものといわれています。

この *Otaksa* が何を意味するのかは諸説ありますが、シーボルトが日本のあじさいの美しさに感銘を受けた気持ちはよく分かりますね。

